平成29年度市民提案型パートナーシップ事業

大仁駅前商店街の情報・発信事業

報告会資料

NPO 法人伊豆学研究会

【事業の目的】

大仁駅前商店街を活性化するためにまちすけを開設、その情報紙を作成して、回覧、配布する。

「まちすけ」とは大仁駅前商店街の活性化を助ける、大仁駅で電車を待つ、電車で来る人を助ける、待ち合わせの人を助ける場所。

【事業の内容】

大仁駅前商店街や地域の情報紙「まちすけ通信」の発行

・街ゼミをはじめ各種講座等の開設情報

・大仁区や周辺地域の地域・文化情報の発信

・コミュニティスペースの利用情報発信

【役割分担】

○NPO法人伊豆学研究会

毎月、情報紙「まちすけ通信」の作成・発行

○伊豆の国市地域づくり課

周知・事業のPR

【活動内容】

○「まちすけ通信」の作成・発行

6月10日　まちすけ通信3号を作成

7月1日　まちすけ通信3号発行、市地域づくり課を通じて地域回覧とした。

↓　以下、毎月1日「広報いずのくに」等の配布時期に合わせて回覧に供した。

大仁地域のみの回覧と、伊豆の国市全域の回覧（3回）を行った。

3月1日　地域づくり課には「まちすけ通信」の校閲をお願いした。

3月5日　伊豆の国市内に「まちすけ通信3月号」を折り込み

○H.P.の作成と「まちすけ通信」のアップ

izugaku.jp、「伊豆を知的に楽しむサイト」、市役所でリンクをはっていただいた。

・街ゼミの案内を2回まちすけ通信に掲載

・まちすけ通信に「大仁駅前商店街情報」として連載記事を掲載

・七夕、きにゃんね大仁夏祭り等の情報を掲載

【本事業の成果】

まちすけの利用人数

地元の方が数名常時観光客を案内し、交流が生まれている。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月
2017年					479↑	697
2018年	606					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2017年	717	672	748	780	754	623

まちすけ通信

6月4日で1か月、利用者500人超え

高齢者増び始めました

街歩きをしました

街歩きで見つけた"なごみ"

様々な形でご支援をいただいております。

まちすけイベント情報

まちすけ通信

大仁駅前商店街食べ歩き

かわいいお客さんが見えました

まちすけ情報

まちすけ通信

大仁ゼミナール開催

まちすけ通信

街角ギャラリー始動、11月18日まで

大仁中学校美術部の皆さん

年賀状をパソコンでつくりませんか？

街角ギャラリー好評でした

クリスマスリース制作ワークショップ

明けましておめでとうございます

まちすけスタッフの紹介

ピースはどこだ？大仁駅前商店街で宝探し

まちすけ通信 No.11

きにゃんね大仁夢追隊・伊豆学研究会
伊豆の国市大仁597-2　☎0558-76-0030
営業時間10:00～16:00、水曜定休
平成30年3月1日発行　Vol. 30-3

大仁の魅力を発信し続けます

冬休み、神奈川県の高校生、いわゆる「撮り鉄」が、高校の部活動の一環で伊豆箱根鉄道の写真を撮影しに来ていました。撮影ポイントを求めて、鉄道沿いに高校生がたくさんいました。まちすけにも、そんな高校の部活動の顧問と思われる方が見えました。電車を見下ろして撮影したいとのこと、城山の上からはどうかと言われ、望遠レンズをつけたカメラを持っていました。南條と宗光寺境の横山坂を紹介しました。

寄っていただく観光客の多くは、昼食を摂れる場所の照会です。商店街には全国チェーンのファミリーレストランがありません。それぞれの食堂で、いろいろな味を楽しんでいただいております。次いで、修善寺方面まで含めた観光できる場所の案内です。当然、休憩所として利用される方が多くいらっしゃいます。地域の情報を求めて来られるので、情報発信できる方 歓迎で、お手伝いをお願いします。

伊豆は文学のふるさと

まちすけに「文豪ストレイドッグス」シリーズを配架しました。「文豪ストレイドッグス」をご存じですか？最近高校生たちに受け入れられているようです。

古典的な名作とその作者を漫画仕立てにして物語を作っています。興味を持っていただいた方はお茶を飲みながら読んでいただけると思います。

文学のまちとして伊豆市が取り上げられますが、大仁にも文豪が集まりました。これからも様々な情報を、この通信でお伝えしていきます。「まちすけ通信」のバックナンバーはまちすけにあります、また、インターネットでも検索してお読みいただけます。インターネットの URL は「izugaku.jp」または、「伊豆を知的に楽しむサイト」から入ってください。「まちすけ」で検索しても見つけることができます。

※まちすけ応援スタッフ募集中

大仁駅前商店街情報

大仁と文学

伊豆箱根鉄道大仁駅の開業が明治32年です。それ以前の明治25年(1892)に、歌人の正岡子規は下田街道を通って伊豆を旅行しました。『子規全集』の「筆の旅の旅」では、箱根から三島にたどり着いたのが10月11日夕方、その後、大仁から大仁橋を渡って修善寺へ向かいます。大仁橋を渡ったことが書かれています。大仁駅ができると、夏目漱石は明治43年(1910)8月6日から10月11日までの間、胃病の転地療養のため修善寺温泉菊屋で過ごしました。その間の8月24日夜8時に大量の血を吐き、生死の境をさまよったことが「修善寺の大患」に著されました。井上靖は代表作『しろばんば』では、拝作少年が大仁駅で過ごす時間を記しています。

伊豆を代表する歌人種籾忠の関係で釈迢空、萩原朔太郎などが大仁を訪れ、詩歌を作っています。横光利一は戦争末期に訪れ、東洋繊維の労働者をモデルに中編小説『紋章』を書きました。

昭和13年開業の大仁ホテルに洋画家梅原龍三郎が開業当初から同28年まで度々訪れ、宿泊部屋をアトリエにして「狩野川」「富士山図」などの制作活動に取り組んでいます。武者小路実篤は同16年から20年代後半まで、富士山がよく望める大仁ホテルに滞在しました。ここで実篤は城山『わが小画帖』口絵、昭和15年代で数多くの富士山を描いており、一時は家族を連れて疎開もしていました。白樺派の関係で志賀直哉らもよく大仁ホテルを利用し、交友を深めました。

※きにゃんね大仁夢追隊会員募集中